

ヒトノネと業務提携

岐阜信金、SDGsを推進

岐阜信用金庫は、教育福祉事業を手がける一般社団法人ヒトノネ(岐阜市)と、SDGs(持続可能な開発目標)の推進に関する業務提携を結んだ。同金庫の取



業務提携の契約書を掲げる大野達哉常務理事(左)と篠田花子代表理事。岐阜市今川町、ヒトノネ本部

引先企業は、ヒトノネが企画する小中高生対象の体験学習会に関わり、地域貢献やブランディングの強化につなげる。

ヒトノネは学童保育や放課後等デイサービスを運営し、小学生を中心に年間延べ200人の子どもが利用。提携の内容は、同金庫が採用や社員の育成、ブランディング、地域貢献に力を入れない企業をヒトノネに紹介し、ヒトノネがその企業の強みや存在意義などを聞き取った上で、体験学

習会を開く。企業は人手不足の中、子どもに会社をPRできるほか、従業員が業務内容を子どもたちに話すことで、自分の仕事に誇りを持つことにもつながる。

岐阜市今川町のヒトノネ本部で25日、同金庫の大野達哉常務理事とヒトノネの篠田花子代表理事が提携内容を説明した。大野常務理事は「地域密着で企業とヒトノネの活動をサポートしたい」、篠田代表理事は「SDGsにつながる多様な取り組みをしたい」と話した。